

(6) 2019年(平成31年) 3月14日(木曜日)

「ジリジリジリー！」  
私は、ハワイに15歳の時に家族と共に大阪から引越してきた。英語はもちろん、ハワイに来た数日後、一人で中学校に行った初日のことだった。テストを受けさせられていた私は、監督の先生と教室で二人きりだった。その時、突然鳴り響く非常ベル。驚いて顔を上げ教室の外を見ると、そこには走り逃げ回る生徒で廊下がごった返していた。

「火事だ！」とっさに状況を察知することが出来た私は早く逃げなくてはと焦る。しかし、英語で「火事」って何？「火」は「ファイヤー」だけで「事」って

何?? そんなことを考えながら、もたもたしていたら逃げ遅れる！と気持ち焦る。脳裏には明日の新聞の一面記事のタイトルが浮かぶ。「かわいいそんな留学生。英語がわからないから逃げてたため逃げ遅れたけど、どこにどう逃げ

何?? そんなことを考えながら、まぐる生徒たちの流れに交じらる。完全にパニックしている私は、そこにいる生徒を捕まえては日本語でおかまいなしに聞く。「今、非常ベルが鳴ったけど、どこにどう逃げ

南加キリスト教教会連合

変化の中から見える本物

清水 撰

「悠長なことは言っちゃいけない。何でもいい！ジェスチャーゲームで外に出ていかと先生に聞き、いいと言われた(おそらく)ので逃げ

「悠長なことは言っちゃいけない。何でもいい！ジェスチャーゲームで外に出ていかと先生に聞き、いいと言われた(おそらく)ので逃げ

その生徒は、「火事？」と私に聞く。「うん。今、非常ベルが鳴ったでしょ？」  
「あー、あのベル。非常ベルじゃないよ。今は休憩時間」  
「・・・」絶句の私。  
日本から来たばかりの私は「キンコンカンコン」がベルだと思っていたが、ハワイのは非常ベルで私の当たり前はハワイでは通用しなかったのだ。

その生徒は、「火事？」と私に聞く。「うん。今、非常ベルが鳴ったでしょ？」  
「あー、あのベル。非常ベルじゃないよ。今は休憩時間」  
「・・・」絶句の私。  
日本から来たばかりの私は「キンコンカンコン」がベルだと思っていたが、ハワイのは非常ベルで私の当たり前はハワイでは通用しなかったのだ。

皆さんにも「カルチャーショック」の体験があると思う。複数の文化がぶつかる時に起こる現象だ。そこで自分の「当たり前」が新しい環境では今までのように通用しないという体験をし、自分の「当たり前」を客観的に見る機会になるのだ。

皆さんにも「カルチャーショック」の体験があると思う。複数の文化がぶつかる時に起こる現象だ。そこで自分の「当たり前」が新しい環境では今までのように通用しないという体験をし、自分の「当たり前」を客観的に見る機会になるのだ。

異文化体験で感じるの「世界は広い」ということ、そして、それでは一体何が当たり前で正しいのだろうか？という事だ。善悪に関しても状況や人によつてその理解に個人差がある。私たちは、本当の意味で客観的に物事を理解し、判断できる基準を持っていないということが分かる。では、普遍的に正しいものは存在するのだろうか？

異文化体験で感じるの「世界は広い」ということ、そして、それでは一体何が当たり前で正しいのだろうか？という事だ。善悪に関しても状況や人によつてその理解に個人差がある。私たちは、本当の意味で客観的に物事を理解し、判断できる基準を持っていないということが分かる。では、普遍的に正しいものは存在するのだろうか？

「イエス・キリストは、きのうもきょうも、いつまでも、同じです。」(聖書)

「イエス・キリストは、きのうもきょうも、いつまでも、同じです。」(聖書)

(ジャパニーズ・クリスチャン・フェローシップ・ネットワーク北米代表主事)

(ジャパニーズ・クリスチャン・フェローシップ・ネットワーク北米代表主事)